

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2023年度 第4号

事務局：〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

京都産業大学 外国語学部 平野亜也子研究室内

E-mail: kelesoffice@gmail.com 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2024年3月28日発行



巻頭言

今求められる「リアル」な学びの場

関西英語教育学会副会長 横川 博一（神戸大学）

この一年、どういう巡りあわせか、私のような者を教員研修の講演などと呼んでくださるということが何度か続いた。昨年二月の岡山の高等学校でのテーマは「高等学校『論理・表現』の指導と評価」。このようにたいいお題が与えられる。いや、そのテーマ、むしろ私が知りたいことなんです、ということも少なくない。幾つになっても試練はあるものだと思つづく。こういう状況に追込まれると、できるだけ「楽をして」なんとかしようとするものだ。このときの講演では、検定教科書の編集の過程で自分なりに描いている『論理・表現』で育てたい力を明確にするところからはじめ、大学入試問題の実例にもその答えがあるのではないかと探ってみたり、ここ数年取り組んできた動機づけの観点から授業での活動を捉え直してみたり、とにかく自分のもっている知識とこれまでの経験の記憶とを想起し、関連づけて話を組み立てていく。もっとも苦手な評価の部分は、セミナーで仕入れた情報を活かして自分なりの考えも組み込んでみる。いくつかのバラバラだったパズルがびたつとはまって、当初描いていた以上のものが創発されたときの喜びは大きい。

自分の「知っていること」を使って「楽をしよう」と始めた講演の準備だが、この講演に最適かつ有効な知識を呼び起こせるかどうかでその成否が決まる。せつかくの知識も必要とされる場面で発動・起動されなければ、それは有用な知識とは言えない、ということをもつて体験する。また、過去に行った研究や授業実践といった、自身の中にある「知識」も、このような特定のテーマの文脈で呼び出してみ

ると、また違った意味や意義を帯びて、新たな価値を加えてくれることがある。すでに過去のものとなった研究や授業実践の新たな存在意義を発見する興奮も、講演依頼がなければ経験しなかったことだ。

このときの講演がきっかけで、その後、その高等学校には、研究授業の参観と指導助言に二度呼んでいただくことになる。そこでも予想もしない経験をすることになる。ベテランの先生が展開されたリーディング中心の授業は、「私の常識」からみればツッコミどころ満載なのだが、生徒たちとうまく息が合っていてとても魅力的な授業だったのだ。私はそんな授業を目の当たりにして、指導助言のことばどころか、「私の常識」をほとんど根底から揺るがすくらいの衝撃を感じたのだ。このできごとは、授業というものに対する私の考え方・見方を大きく見直すきっかけになった。しかし、何か答えを得たわけではない。これからも問い続けることになると思う。

昨秋にお邪魔した広島学校の先生方からも講演後、いくつかお題を頂戴している。「英文の要約指導のポイントとその指導法」「発音を意識させるために効果的なこと」「場面設定を意識した授業づくり」「どうすれば速読できるようになるか」「パフォーマンステストの評価法」「家庭学習のあり方」などなど。

このように私を容赦なく崖っぷちへと連れて行ってくれるのだが、そうでなければ何も創発しなかったであろう人生を体験できるのだから、私は喜んでその試練に挑んでみたい。今、児童・生徒・学生たちも、こんなリアルな学びの場こそ、求めているのではないか。

報告 第27回卒論・修論研究発表セミナーのお知らせ

2024年2月12日 会場：立命館大学 大阪いばらきキャンパス

今年度最後のセミナーを立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催しました。卒業論文・修士論文を完成させた学生さんと、将来の英語教育をともに考える語らいの場です。研究発表は卒業論文5本、修士論文4本がありました。発表者へ大変貴重なご助言をいただきましたコメンテーターの加賀田哲也先生（大阪教育大学）、水本篤先生（関西大学）、植木美千子先生（関西大学）には、心から御礼申し上げます。また、アフタヌーンティーは、研究発表等について議論を深める素敵な時間でした。さらには、スペシャル・トークの講師に望月正道先生（麗澤大学外国語学部 教授）をお迎えして、「生きる力を育てる英語の授業」というタイトルで、ご講演いただきました。本年度を締めくくりにふさわしいご発表・ご講演、そしてお申し込み・ご参加いただきました59名の皆様に御礼申し上げます。

<スペシャル・トーク>

「生きる力を育てる英語の授業」

講師：望月 正道先生
(麗澤大学外国語学部・教授)

語彙習得研究の第一人者である望月先生のお話は、90分が一瞬と思える程、非常に興味深く、まるで学生に戻って授業を受けている様な気持ちで、夢中になって拝聴していた。講師紹介の際に横川先生が予想された通り、我々は望月先生のお話に引き込まれ、お人柄にすっかり魅了されていた。

望月先生の「本日のメニュー」の1つ目は「生きる力」であった。生きる力とは、「目標を達成する力」、「他者とつきあう力」、「感情をコントロールする力」、即ち「実行機能」である。生きる力の育成は、自立した人間を育てるために必要であること、また、大きな変化の中にある現代社会において、問題を見つけ、解決する能力を育成する必要性についても述べられた。私自身、現在PBLを取り入れた英語授業を実践しており、先生のお話から、課題解決能力を育む重要性と、今後さらにその必要性が増すことを実感できた。

2つ目は、「英語の知識・技能の育成」つまり、英語を使える生徒の育成である。語彙を記憶するために、生徒自身が考え、推測することが大切である。例えば、単語の意味をすぐ辞書で引くよりも、意味を推測してから調べる方が、より強く記憶に残る。また、自分の経験や知識に関連づけて語彙を記憶することも効果的である。そして、知識を実際に使うために、英語をたくさん話し、書くことが大切である。英語を知識として理解させ、それを技能として使えるような活動が大切であると述べられた。

3つ目は、「思考力・判断力・表現力の育成」。教員は、生徒が思考して答えるよう質問する必要がある。推論発問、と聞くと難しそうだが、望月先生が例として質問を出すと、我々も自然と英文を読んだ後で推察して答えることができた。

4つ目は「主体的協働的学びの育成」。学習に大切なのは動機づけと学習意欲である。モチベーションが成功体験に繋がり、それがまた学習意欲を増大させる。先生ご自身の学生時代の学習意欲と実行機能について、当時の写真とともにエピソードをご紹介くださり、先生の貴重な体験を身近に感じることができた。

先生のお話の内容は盛り沢山であったが、共通していたのは「生徒に考えさせる」ことの大切さだったように思う。生徒が推測し、深く考えることが、主体的な学び、深い学びへと繋がる。教師は、生徒が目標に到達できるよう見守り、時にはscaffoldingも必要であること、そして学習意欲を起こさせるために、生徒が面白いと感じる、良い授業をすることの大切さを改めて教えてくださった。

AIやテクノロジーの発達で混沌とする現代社会において、「生きる力を育てる英語の授業」を実践することがいかに重要であるか、望月先生のお話を拝聴し、身に染みて実感した。生徒の生きる力を育成するのは、人間である我々教員であることを肝に銘じて、英語教育に邁進したい。望月先生から元氣と意欲と深い学びを頂いた、貴重な90分であった。

報告者：板垣 静香（関西学院大学）

＜発表者体験記＞

“How Students with Foreign Roots Experience English Classes in Japanese Primary and Secondary Schools: A Qualitative Interpretive Study”

山下 さくら（神戸市外国語大学）

はじめに、このような機会を頂いて自身の研究内容を発表することができたこと、多くの方々にご清聴頂き、有意義かつ建設的なコメントや質問を頂けたことに心から感謝申し上げます。

私は、海外にルーツを持つ児童生徒の英語の授業内における経験や、その考察から見えてきた現状等について発表を行った。私自身 dual-heritage として日本の義務・高等教育を経験したこともあり、海外ルーツの子どもたちがどのように英語の授業を経験しているのか、そこにある困難や背景に存在するものに関して深く知り、pre-service teacher としての自身も含む教員の awareness-raising を行うことがこの研究の目的であった。しかし、discourse analysis の中で、彼らのような児童生徒を前にした英語教員もまた、授業内の彼らとの関わりの中で様々な困難や葛藤を抱えているのかもしれない、ということも見えてきた。発表には多くの現職の先生方に来ていただき、頂いたコメントや発表中の反応からも、その気づきに重なるものを感じられた。

発表後、「気づきをありがとう」というお言葉を数多くかけていただけたが、私も先生方との交流を通し、この研究を生かされる場面の可能性など多くの気づきを得ることができた。今後も英語教員として、自ら積極的に学び・気づきを求めていきたい。

「視覚的要素が英語語彙学習に与える影響とその効果」

吉村 宗眞（京都外国語大学）

今回は英語教育の発展に対して日々並々ならぬ情熱をかけている先生、並びに学生諸氏の面前で自身の研究成果を発表できたこと、大変光栄に思う。また会場では多くの知見を得ることができ、今後教育に関わっていく上で有益な学びの機会となった。

今回私は英語の文字形態そのもの（シニフィアン）が英語語彙学習者にとってどのような影響・効果を与えるのかという問いをテーマに研究を行った。実験では視覚に差異を設けた英単語リストを1週間使用してもらい、プレテストとポストテストの両テスト間におけるスコアの推移を分析した。結果として

有意差、効果サイズともに認められ本研究を通して「視覚」といったものが英語学習者にとっての補助輪の一つとなる可能性を示すことができたように思う。しかしながら、コメンテーターの水本篤先生からご指摘があったとおり実験群の統制がとれていなかったこと、また本実験の結果に他の要素が影響している可能性が否定できないことなど本研究には様々な課題が残されているため、今後の発展のためさらに条件を厳しく設定していく必要がある。

会場では主に教育に関する議論が活発に行われており非常に有意義な時間を過ごすことができた。私がこのような経験ができたのも、神原一帆先生をはじめに大学で出会った数多くの人のおかげである。この場を借りて深く感謝の意を表す。

「中学校英語科授業における相手意識の高揚に関する実践」 田代 千紫季（京都教育大学）

私は、「話者の言動が人物（相手）に向けられていることを自覚し、相手や環境等の外的要因に応じて自身の言語使用を変化させよう」と意識することと定義した「相手意識」の高揚を図るインタラクティブ活動の実践を中学3年生に対して行い、生徒の変化や実践の効果を分析・考察した修士論文を授業実践報告として本セミナーで発表した。

著名な先生方に私の発表を聞いていただくのは非常に緊張した。しかし、先生方からの適切なフィードバックのおかげで気づいた点が多々あった。「やりとり」は新学習指導要領になってからのもので、研究の価値が非常に高いことを再認識し、また、実践の様子などの質疑応答から、「感情をのせる」タスク設定の重要性や効果についての考察をご提案いただき、新たな知見を得ることができた。

卒論の際は、オンラインで発表の機会があったが、今回のように対面での発表は初めてだった。直接発表を聞いてくださった方々から感想を聞き、更に交流することができるのはもちろんのこと、そのお言葉から次に研究したいことのアイディアをいただけた。私は春から教員として教育に従事するが、今後も実践研究を通して英語教育に貢献したいという意欲を本セミナーで高めることができた。

最後に、今回このような貴重な経験の場を用意してくださった先生方に、心からの感謝を表明する。

学会事務局からのお知らせ

学会費納入のお願い

新年度を迎えるにあたり、2024年度学会費納入をお願いいたします。詳しくは、同封のお知らせをご覧ください。

メールアドレスご変更の場合

ご所属の変更等でメールアドレスを変更される場合は、必ず keles.treasurer@gmail.com までご連絡ください。その際、ご所属、お名前、電話番号も併せてご連絡ください。

関西英語教育学会 第30回研究大会のお知らせ

日 程：2024年6月8日（土）・9日（日）

会 場：龍谷大学 大宮キャンパス
(対面開催の予定)

〒600-8268

京都市下京区七条通大宮東入大工町 125 番地の1

アクセス：[龍谷大学HP](#)

JR 東海道本線・近鉄京都線・京都市営地下鉄烏丸線「京都」駅下車、北西へ徒歩約10分（市バス約3分）

参加費：

会員 無料

非会員（一般） 2,000円

非会員（学部学生・大学院生） 1,000円

*学生証をご提示ください。提示がない場合には一般参加費となります。

参加登録：参加申し込みフォームから事前登録をお願いします。非会員の方は、事前登録した上で、当日受付で参加費をお支払いください。

当日参加も受け付けますが、事前登録いただくと受付がスムーズです。

プログラム：講演・ワークショップを鋭意企画中です。プログラム等詳細が決まり次第、随時特設ウェブサイトにてお知らせいたします。

研究大会特設ウェブサイト：

<https://sites.google.com/view/keles2024>



発表募集／Call for Presentation：

研究発表、公募ワークショップ、公募フォーラムを募集中です。発表申込締切は5月7日（火）です。詳細は同封の発表募集チラシ、特設ウェブサイトをご覧ください。

全国英語教育学会 第49回福岡研究大会

日 程：2024年8月24日（土）・25日（日）

開催形態：対面（予定）

会 場：福岡工業大学 <https://www.fit.ac.jp/>
〒811-0295 福岡県福岡市東区和白東 3-30-1

アクセス：[福岡工業大学HP](#)をご覧ください

その他問い合わせについて

・学会費、入・退会、会員情報の変更：

会計・名簿担当幹事 斉藤倫子（関西学院大学）／
濱田真由（神戸大学） keles.treasurer@gmail.com

・学会誌『英語教育研究』：

SELT 担当幹事 浅羽真由美（京都産業大学）
masaba@cc.kyoto-su.ac.jp

・研究大会、各種セミナー、学会全般に関して：

[事務局 お問合せフォーム](#)

・ニューズレターは、PDF化してKELESのウェブサイト（下部リンク）にも掲載しております。

<http://www.keles.jp/activity/newsletter/>